

三心を磨く

学校だより No. 7
令和7年12月23日(火)発行
須崎市立東中学校
文責：(教頭)
<http://www.azuma-school.ed.jp/>

2学期終業式 校長講話より

84日の長い2学期が終わります。今学期の重点は「行事」と「勉強」でした。皆さん一人一人の取組はどうでしたか。

- * 行事に向かう仲間との活動の中に、自分や仲間のどんな発見があったのでしょうか。
- * 行事に、仲間と共に向かう過程で、自分のどんな育ちがあったのでしょうか。
- * 本気になって、じっくり勉強に取り組めた2学期になったのでしょうか。
- * 勉強を通して、勉強以外に自分に身につけてきたことは何かありますか？

例えば、途中わからなくなっても考えるのをやめないといった「粘り強さ」や、できるようになるまで繰り返し練習するといった「根気」などです。自分が苦手な教科の勉強の中に、自分の成長の種がある、と聞いたことがあります。毎日欠かさず水をあげたり、日や風に当てたりしていれば、やがて芽は出てくる、ということでしょうか。

3年生は、2学期で中学校の一通りの行事は終わり、残すところは、人生の進路選択に全力投球することと、中学と義務教育の卒業に向け、歩んできた足跡を辿っておくことかと思います。次の進路について、皆さんは更に高等学校へ進んで学びを深めることを選ぶと思います。「進路選択に全力投球する」とは、たくさん悩んで、色々な人と話して、確証のもてることは何もなければ、それでも自分を信じて、なんとか自分で覚悟して決めた「次の生き方」に向かって、ひたすら勉強することだと思っています。冬休み～3月のわずか3ヶ月ですが、この期間の追い込みで力がぐんと伸びます。希望する高校が「求めている力」をつけるための一気に追い込みをかける3ヶ月といってよいでしょう。合格が既に内定している人、これから受験の人、仲間の中には様々な状況がありますが、次の新生活までに与えられた時間は3年生全員同じです。

また、卒業までの時間がどんどん短くなっています。どんなふうに中学の3年間という時間を費やし、何に頑張ってきたか、何を楽しいと感じたか、性格や考え方で変わってきたところはあるかなど視点をもって振り返り「今の自分」をしっかりと把握しておきましょう。じっくり時間



をかけて振り返ってください。あとはこの3年間について「ありがとう」と感謝を伝えたい人、伝えるべき人はいますか。またそれはどんな「ありがとう」ですか。近々くる「別れ」に向け、3年間の成長のために関わってくださった方がどれだけいるかを思い出してみましょう。こうして、3月には中学校生活をきちんと閉じ、次のステージでの自分の新しい一歩を誇らしく踏み出してほしいと思っています。



2年生は、生徒会長、副会長が決まり、これから2年生の生徒会運営が始まります。行事に全力投球してくれた2年生、そこには学級の歴史がきちんと刻まれているという話は以前の校長講話でもお話ししましたが、2年1組の学級は確実に成長しています。まだ伸びます。学級の皆さんで生徒会長、副会長と一緒に考え、アイデアを出し、学級が結束してパワフルな3年生になることを期待しています。それには、

この3学期の新生徒会への取組がカギを握るのではないのでしょうか。表で動いているのが役員の人であってもその後ろに2年1組の皆さんの姿が見えるような、そんなふうに結束するにはどうしたらよいかを学級のみんなで考えて取り組んでほしいと思います。2年生はこれまで、東中の「柱」として頑張ってきてれています。これからは少しずつ東中の「顔」となる準備が始まりますね。

1年生は、この2学期で随分中学生らしい顔になりました。先日〇〇先生の社会の授業で、様々な資料を調べた上で自分が捉えたアメリカという国を自分の言葉で説明するということをやっていました。前後の席の4人グループで勉強していました。すごいなと思ったことは、聞いている人の参加の仕方でした。発表者の内容についてただ聞いているだけでなく「それってさあ…」と自分の意見や質問をぶついたり、「その言葉どういう意味？」と発表者の使った言葉にわからない言葉があると自分のPCですぐ調べたりして「ああそういうことかあ」という反応をしたりしていました。このような反応は、発表している人にとって、とても嬉しいと思います。自分の発表をしっかりと聞いてくれているのを感じるからです。こういう学習環境を自分たちで作れると、社会の地理が苦手な人も、自分の思ったことを言葉にするのが苦手な人も、頑張っ自分なりの意見を考えてみようかなという気持ちになって、自分を諦めずに済むんです。自分の考えを受けとめてくれる、聞いて反応してくれる、自分が学級の仲間に認められていると思えるから、得意・不得意を超えて「自分の精一杯の力をだしてみよう」と思えるのです。学校へ来て、友だちと勉強する良さはこういう所にあるともいえます。1年生ですすでにこの学習環境を作れることがすごいと思いました。1年生は東中の「宝」です。原石が少しずつ光り出しました。素敵な学級に成長しているので、次の、上級生と下級生を支える東中のどっしりと太い「柱」となるため一層頑張っほしいと思います。



とにかく、生徒も先生もがんばった84日間でした。お疲れ様でした。冬休みは生徒の皆さまにとってとても楽しみなお休みですね。クリスマスがあり、お正月があり、家の行事満載です。しっかりリフレッシュをして、また1月8日に元気に会いましょう。皆さんよいお年をお迎えください。

最後に、2025年の東中といえば、私が思い出すのはこの曲です。皆さんもこの曲を聴いて、2学期を振り返ってください。



♪WANIMA『ともに』♪

2学期を振り返って 代表生徒の発表より

<1年1組 さん 2学期の自分を振り返って>

僕は2学期に頑張ったことが2つあります。

1つ目は、東祭です。初めてなのでとても緊張していました。1日目の全校総合は、どのグループの発表も分かりやすく発表なども見やすかったです。僕はAのグループで、プレイエルの活動をしました。活動ではプレイエルをどうしていくかなどを考え、プレイエルの中はどうなっているかを学びました。来年の総合では今年の経験をいかして、地域とかかわるようなことをしてみたいです。初めてのチャレンジランキングでは、いろいろなことができました。大縄、水汲みリレー、チーム対抗リレーをしました。どれもみんなで熱くなったり楽しくできました。来年は、全校総合、チャレンジランキングでどんなことをやるのが楽しみです。

2つ目は部活のことです。ぼくは、卓球部に入っています。毎日、部活は楽しく取り組んでいます。普段、一生懸命取り組んでいるつもりではありますが、疲れていたり、気持ちが乗らなったりして、集中力が続かないときがあります。部活動は、もう地域クラブに移行してしまうので僕たちが最後の卓球部になるかもしれません。僕は部活の大会でまだ納得のいく成績を残せていないと思っています。なので集中して練習をしたら、もっと強くなれると思います。もっと強くなって、大会で自分の力を発揮できるようになりたいです。僕たちで最後になるかもしれない部活の目標を達成できるように日ごろからの練習頑張っていきたいです。

来年度からは上級生になるので、普段の生活を見直して、下級生の見本となれるよう行動して、学習面や、行事、部活動など、自分の出来ることを精一杯取り組んで、いい3学期にしたいです。

<2年1組 さん 2学期の振り返りと3学期の決意>

2年生の2学期が終わろうとしています。2学期を振り返ると、私にとって大きな成長と、反省点が見えた充実した時間でした。今日は、その振り返りと来年に向けた目標を話します。

2学期、一番良かったのは、クラスのみんなとのコミュニケーションが前よりもずっと深まったことです。今までの私は、普段の会話の中で自分の素をあまり出せていなかったと感じています。しかし、2学期は授業中の話し合いや休み時間の何気ない会話の中で、自然に笑い合い、自分の素を出せることが多くなり、良かったと感じています。特に印象に残っているのは、夏休み明けにクラスで行った学級レク「夜祭(やさい)」です。クラスのみんなと一つの目標に向かって協力し、準備から当日までを一緒に過ごしたことで、言葉だけでなく、お互いを思いやる気持ちや一体感を感じることができました。私は花火係でしたが、自分たちが企画したもので、クラスの仲間が笑顔で楽しんでくれている姿がたくさんあって嬉しかったです。この経験を通して、仲間と協力する楽しさを改めて知ることができ、クラスが自分にとってより心地よい場所が変わっていきました。

2学期の反省点は、学習についてです。特に校内テストや単元テストで、「もっとこうしておけば良かった」と、後悔が残る事が多くありました。家庭での学習時間や計画的なテスト対策ができていなかったと反省しています。この結果を受け止め、自分の短所から目を背けずに取り組む事が大事だと感じました。

3学期は、いよいよ引継ぎの時期を迎えます。そこで私は、3学期を「3年生に向けて自律し充実した学期」にしたいと考えています。これまで以上に自分でなにができるのかを考え、行動していくことを意識したいです。人から言われて動くのではなく、自分の将来のことを考え、今何をすべきかを判断し、積極的に勉強に励みたいと思います。また、勉強だけでなく、生徒会活動にも積極的に協力していきたいと思います。自分たちの学校生活をより良くするために責任を持って取り組み、中学生生活をより充実できるものにしたいです。

＜3年1組 さん 2学期を振り返って＞

私は、中学3年生の2学期を振り返ると、勉強にあまり集中できなかったというのが一番の今の思い出あり、反省点です。この学期は、受験を意識し始める時期だったものの、勉強に対するモチベーションがなかなか上がらず、心のどこかで「まだ大丈夫だろう」という甘い気持ちがありました。その結果、やるべきことに集中できず、時間を無駄にしてしまった部分が多かったと思います。特に、数学や英語に関しては基礎的な部分がまだ不安定で、公式や文法に自信をもてないまま過ごしてしまいました。例えば、数学の問題を解くときに公式を思い出せず問題を解くのに時間がかかったり、英語では単語や文法の理解が不足していて答えられなかったりして、そのことを痛感しました。このような勉強の後回しが、成績にも反映されてしまったように感じます。

そんな中ですが、2学期の総合テストでは、少しだけ成績が上がった教科もありました。点数が上がったことに嬉しさを感じましたが、それでも、まだまだ受験に向けてやるべきことは多く、そのことに安心することなく、今後の学習に活かしていかなければならないと思います。

残り少ない3学期では、受験本番に向けて、まずは毎日何時間勉強するかの目標を立て、週ごとの進捗を確認していきたいです。特に、苦手な教科や分野を重点的に復習し、少しずつでも理解を深めていきたいと思います。

この2学期を振り返ると、反省すべき点が多くありましたが、それを乗り越えて成長するためのチャンスだとも感じています。今後は、より一層、意識を高くし、受験に向けて全力で取り組んでいきたいです。

「命の授業」有坂 栄康先生・あいろいろのツバメプロジェクト

後期人権学習月間中の11月21日、有坂栄康先生と、あいろいろのツバメプロジェクトの皆さんをお迎えして、ご講演をお聴きしました。有坂先生は、今から9年前にALSという難病を発症され、今はご自宅で静養しながら、ご講演はじめSNSを中心に「命のメッセージ」を発信していらっしゃいます。そんな活動をするなかで、初めて教師になったときに、出会った教え子の皆さんと再会し、有坂先生と一緒に「命の授業」を一人でも多くの皆さんに届けたいと願って結成されたのが「あいろいろのツバメプロジェクト」です。



この講演会に先立ち二日前には、宮下校長先生から「私の友だち」という題名で校長講話がありました。有坂栄康先生と宮下校長先生の出会いから、病気が発症して日に日に体調が悪くなっていく友人を間近で見守ってきた苦しい心情や、有坂先生が生と死の狭間で葛藤しながらも強い気持ちで生きていこうとする生き様、自分にとって心から尊敬する友だちであるということについて、熱く語っていただきました。

当日は、YOASOBIの『ツバメ』という歌で有坂先生らをお迎えすると、有坂先生は瞬きで「歌、嬉しかった」と、思いを伝えてくださり、喜んでいただいたことに私たちも喜びを感じました。有坂先生お話は、深く心にしみ渡り、生徒たちは自分の考えや置かれた状況と重ねながら、思いおもしろい感じ方で、様々な学びをしていました。

＜有坂先生の講演会の感想より＞

- 自分のことも相手のことも思うのを大切にしていきたいと思いました。人権のことについてよく考えたいです。

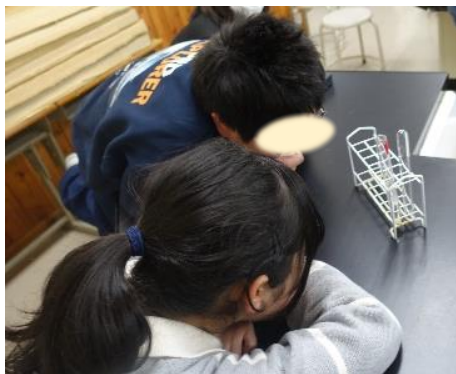
- 今回の講演を聞いて、自分や相手を大切にすることの大切さを知りました。障害をもっていても、もっていないくても同じ人間で違うところなんてないんだなと思いました。また自分をもっと好きになったほうがいいとも思いました。講演会ももらい泣きしてしまいそうなくらい大切なことを学べてとてもよかったです。
- 今僕がこうして普通に生活しているこの普通がかけがえのないものなんだなと思いました。
- どんなことがあっても感謝を忘れず一度きりのもらった命を自分なりに生きとおすことが自分の中でかなり響きました。
- 私が磨きたいと思った力は、「心」「感」で、思いやりの心と書いたけど、自分を好きでないと人にやさしくできないということが今日改めてわかりました。いつも一緒にいる家族、友人には少し恥ずかしくて言えないけど、これを機にしっかりありがとうを伝えていこうと思いました。
- 僕は僕自身あまり価値がないと思っていましたが、必ず社会に貢献していると聞いて、自分に自信ができました。自分のことと相手のことを大切にしながら将来歩いていこうと思いました。
- 自分が生まれてきた意味は絶対にあるから、どんなに嫌になっても最後まであきらめずに何事にも取り組みたいと思いました。
- 有坂さんの話を聞いて、自分にもっと自信をもって生きようと思いました。今までは、運動神経もまあまあで、勉強もそこまで得意ではなく、コミュニケーション力が低い自分が嫌いで嫌でしたが、有坂さんの講演を聞いて、自分のことを今まで以上に大切に、なるべく相手のことも今まで以上に積極的に、大切に接していこうと思いました。
- 自分にはわからないからいいやとか、心無い言葉を言うのではなくて温かい言葉をかけることができる人になりたいです。また、すぐにできないからもうやらないって諦めてしまうのではなく人に聞いたり、自分ができることを探したりして自分の最大限の力を出せるような人になりたいです。
- 有坂さんの話を聞いて「あきらめない」「挑戦する」の二つを大事にしようと思いました。たまに自分のことをあきらめて『自分は無理だからやめておこう』とか『友達、先生にお願いします』と、他人に任せてしまったりすることが多くありました。しかし、有坂さんの話にあった【生きているだけで誰かのためになっている】という言葉を見て『自分は今誰かのためになっているんだ』と思いました。これからは『自分は無理だから』と思うのではなく『今誰かのためになっている』と思い、無理だと分かっているけど挑戦したり取り組んでみようと思いました。
- 初めて ALS という病気について知り、その病気の深刻さを知った。有坂先生は目が相当つかれるはずなのに自分たちのためにたくさんのことを伝えてくれた。有坂先生は生きることの大切さを教えてくれたから些細なことでもへこたれないで頑張る生きようと思った。
- 今までできていたことが病気によってできなくなってしまった悲しさや辛さを乗り越え、1日1日を懸命に生きている有坂先生のお話、たくさんのことを学びました。障がいの有無にかかわらず、人はみな生きる権利があって、自分自身を大切にしているということも学ばせてもらいました。
- 最初は ALS さえも知らなかったけど、有坂先生のお話を聞いて、病気で自分の体が動かなくなりづらいこともたくさんあったと思うけど、そんな中で自分なりに一日一日を大切に全力で生きている姿、各地の学校を回って子供達に命の授業をしているということを知り、心からすごいなと思った。人生にはたくさんの挫折があるけど、それを糧にして毎日を大切に過ごそうという言葉がとてもいいなと思った。



- 自分が今幸せに生きていることと、生きていてつらいことがあることも、どちらも大切なことで、とにかく生きていること自体に価値があり、素晴らしいということを理解しました。
- 命はとても尊くて、自分のことや相手のことをよく知って、考えて動くことが大切なんだということを改めて知りました。
- この命の授業をいつか改めて思い出せるように、しっかりと家族などと話したいなと思った
- 毎日幸せを感じられることはすごくいいことだし、とっても素敵なことなんじゃないかなと思います。で、特に大事だなと思ったのが、感謝の心を忘れないことがとても大事なことだと改めて気づきました。私が感謝している人は母親です。なので、日曜日は勤労感謝の日なので、母親に感謝をしていきたいなと思いました。
- 教員人生をやめて、闘病人生を選んだのはすごいなって思いました。有坂先生の話にも合ったとおり私もこの病気になったとしたら、毎日悩んだり泣いたりしてしまうなって思いました。また、命の大切さや、人とどうやって関わっていくのかも学べたし、普段あまり考えないことなので難しかったですがとてもいい機会でした。
- 私のおじいちゃんは2020年に脳梗塞となり、見えない聞こえない動けない話せないという生活となり目を覚まさなくなりました。そこからコロナや感染症の影響で面会はず、先月息を引き取りました。5年間顔を合わせていなかったから、久しぶりに会ったときは元気でお酒とたばこばかり吸っているおじいちゃんとは違う姿で正直衝撃的でした。でも、冷たくなってしまい写真という形で家に残っているおじいちゃんに私は今日の講演を聞いて、命の大切さを改めて実感し、ありがとうという感謝を何度も伝えようと思いました。おじいちゃんの方も自分で頑張ろうともう一度思いました。
- 今年、ずっと会って見たかったけど会えなかった人が亡くなり、死を実感しました。そのような経験をしたからこそその座右の銘が2つあります。1つは、「命大切に一生懸命坊主」です。どういう意味かということ、「3日坊主」ってあるけど、3日などで命を大切にすることの気持ちを忘れないようにするためにこの言葉にしました。2つ目は「誰を信じ、何をするのか。」です。これは、母の言葉です。信じる人はずっと一緒にいる自分であり、それをもって何をするのか、どうやって生きるのか。これを問い続けながら自分だけのものじゃない人生を歩みたいです。
- 一番心に残った言葉は「後ろ向きだから前向きがある」です。自分もよく後ろ向きな考えになることがあるけど有坂先生は「後ろ向きがあるからこそ前向きがある」とおっしゃっていて気持ちが楽になりました。自分がもし後ろ向きな考えになってしまった時には有坂先生の言葉を思い出してみようかなと思いました。
- 障害をもっている人にとって、公共の場が生活しやすい場所になるように私たち障害をもっていない人が努力をする必要があると感じました。また、障害をもっている人も障害をもっていない人も人権を持っているため、その人のことを「正しく知る」「気づく」「違いを認め合う」「誓う」ことができるように心がけたいと思いました。障害は、もっていないけど、「誰もが必ず幸せになれる」と信じてこれから生活できるようにしていきたいと思いました。
- 人権は、生まれながらにみんなもっているものなのに、考え方の違いや見た目など、いろいろなことで勝手な偏見を受けて傷つくこともあるし、もしかしたら自分がだれかを傷つけているかもしれないと、考えました。そのため、人の気持ちを考えることが大切だと思いました。言うだけならいくらでも言えることなので、相手の気持ちを、相手の立場に自分を置き換えて、どんなふうに感じるだろう、と、ちゃんと自分で考えていきたいと思いました。
- 人には一人ひとり人権があるものだし、それをみんなで大切にしながら生きていくことがどれだけ尊いものかわかった。相手のことをわかろうとするのは難しいことかもしれない、けど、互いの違いを認め、正しく知ろうとすることで自分も相手も気持ちよく過ごせるんじゃないのかなと思った。いろいろなことを考えさせられる講演会だった。有坂さんと有坂さんたちの人生を支える人たち全員に幸せでいてほしいなと感じた。

小学6年生が中学校で体験授業

来年度東中学校に入学する予定の小学6年生が来校し、理科の体験授業を受けました。最初に「できるかな…」と心配していたマッチの使い方から始めましたが、ほぼ全員の児童が難なくクリアー。



その後、試験管に入った謎の液体（薄い塩酸）にマグネシウムが溶ける様子を観察したり、その際発生する気体は何だろうと予想したり、発生した気体を集めて、燃やすとどうなるか？という実験をしました。

授業のあとは、宮下校長先生より、「中学校の3年間は、最も成長できる大切な時期である」というお話をお聞きし、校長先生から授業の感想を聞かれると、「予想を立てて、グループの人と話し合ったり、実験したりすることが楽しかった。」「他の教科も楽しみになってきました。」等、中学校の

授業に興味をもったことや中学校生活に期待を寄せる様子が見られました。

PTA よい

次回の資源回収 令和8年1月8日（木）～10日（土）

いつもご協力ありがとうございます。

連絡 端末が新しくなります！

須崎市より生徒一人ひとりに貸し出されている端末が新しくなります。今まで、端末を落としてしまい破損するケースが非常に多く、修理に多大な費用と時間（数か月）がかかるため、台数に限りある代替機を一時的に貸与する等、対応に苦慮しておりました。また、使用はできるものの割れたりヒビが入ったりした端末が増え、入学してきた1年生は、最初から傷がついた端末を引継ぐ状況が課題でした。

破損の多くは、移動中に手が滑って落下したことが原因だったことから、今後は必ずバックに入れて持ち歩くようお願いしたいと思います。そこで、保護者の皆さまにお願いがあります。各ご家庭で手提げあるいは肩掛けバックのご用意をお願いします。

新端末の大きさは、縦23センチ×横27センチ×厚さ3センチです。ご協力をどうかよろしくをお願いします。



来年もよろしくお願ひします

*明日から1月7日（水）まで、年末年始休業になります。この間の連絡方法については、別紙「緊急時における学校閉庁と夜間・休日の学校連絡について」をご覧ください。

皆さま健やかで、よいお年をお迎えください。